

- 1 派遣期日 平成 27 年 11 月 4 日(水)
- 2 研修場所 (学校名) 埼玉県さいたま市文蔵小学校  
所在地 〒336-0025 埼玉県さいたま市南区文蔵 5 丁目 16 番 29 号  
<http://www.buzo-e@saitama-city.ed.jp>

- 3 研修内容  
平成 26・27 年度 さいたま市教育委員会委属(研究指定)  
教育課程(社会科・特別活動)研究発表会

『楽しい学校生活を支える教育課程の研究』(社会科・特別活動)  
～発達の段階に応じた思考力・判断力・実践力の指導と評価の工夫～

(1) 研究主題について

さいたま市は「知」「徳」「体」「コミュニケーション」のバランスのとれた児童の育成を目指している。それを受け、文蔵小学校は、平成 21 年度から特別活動の研究を進め、充実した話合いの指導や実践までを見通した思考力、判断力を要する指導、助言の工夫、実践する力を高めるための評価の工夫を研究してきた。平成 26、27 年度は、それらを踏襲し培ってきた、思考力・判断力・表現力を活用する場として、特別活動に加え、社会科にも取り組むために本主題を設定している。

社会科・特別活動における問題解決的な学習(活動)の過程の中で、児童の思考力を大切にした授業展開や学習のプロセスを通して、児童の思考力・判断力・表現力・実践力を育てる。また、問題解決能力や論理的な思考力などの凡用適な能力の育成を目指している。



(2) 研究の内容

①UD(ユニバーサルデザイン)の視点 (授業者の視点)

「見通す」「考え話し合う」「振り返る」学習の中で、UD化された授業実践を展開する。

- 焦点化(シンプルに) 視覚化(見やすく) 共有化(みんなのものに)

【社会科における UD 化】

<焦点化>

○見通す段階

- ・問題意識を高める教材・資料の精選 ・学習問題の工夫、予想の重視

○問題を解決する段階

- ・教えることと調べ、考えることの明確化 ・話合い、考えることの重点化
- ・思考の流れをつなぐ学習課題

○振り返る段階

- ・振り返りの書き方の明確化 ・次の時間に振り返りを生かせる学習展開

<視覚化> (見やすく)

- ・学習過程の明確化・掲示 ・学習技能(読み取り方)の明確化 ・学習内容(キーワード化)表示
- ・表現方法の明確化(ノートのまとめ方、発言の仕方、振り返り方)・思考の流れのわかる板書

<共有化> (みんなのもの)

- ・出し合う(根拠をもとに) → 比べつなげる → まとめる

【特別活動における UD 化】

<焦点化>

○見通す段階

- ・必要感のある議題の設定 ・提案理由の共有化 ・意見をもち、学級会への主体的な参加

○話し合う段階

- ・思いを伝え、受け止める話し合い
- ・話し合いの焦点化
- ・よりよい集団決定をするための折り合い
- 振り返る段階
  - ・次の活動や今後の生活に生かせる話し合い
- <視覚化> (見やすく)
  - ・提案理由や決まっていることの可視化
  - ・児童の意見の可視化
  - ・可視化、操作化、構造化
  - ・活動カレンダー、学級活動コーナーの掲示
  - ・話し合いのポイントの掲示
- 共有化(みんなのものに)
  - 出会う → 比べ合う → 決定する(折り合いをつける)



<話し合いの段階的指導>

## ②社会科・特別活動の具体的な取組

### 【社会科】

#### (1) 問題解決的な学習過程の工夫

- 単元構想図の作成
 

単元の指導の流れや一時間毎の学習活動が一枚の紙面で明確になるよう構想図を作成してある。授業者にとり前時とのつながりが明確になり、スムーズな学習が展開できる。
- 社会的事象との出会いを大切にした導入
 

単元の導入や毎時間の導入を工夫し、児童の生活や経験にかかわる内容を取り上げ疑問や予想をもたせる。
- 「課題をもつ」→「予想」→「問題解決」→「まとめ・振り返る」のパターン化
 

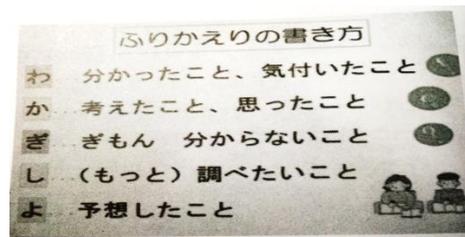
パターン化することで、予想をもとに調べ、根拠をもって考えることで課題に対する考えを深められる。

#### (2) 調べ考え表現する学習活動の工夫

- 考えをもたせる教材・かかわり合い
- 思考の流れのわかる板書・ノート指導

#### (3) 一人一人のよさや可能性を伸ばす評価

- 振り返りを生かす



<一人一人のよさや可能性を伸ばす評価(社会科)>

### 【特別活動】

#### (1) 実践活動を見通した SPDCA サイクル

- 活動カレンダー
 

実践までに必要なことを掲示しておくことで教師も児童も見通しが立てやすくなる。
- 学級活動コーナーの活用
- 具体的なイメージをもつための活動
 

身近な人や家族にインタビューしたり、他学年の活動を調査したりすることで、一人一人が意見をもって学級会に臨める。

#### (2) 話し合いの充実を目指した指導の工夫

- 計画委員会の仕事や教師の助言を載せたリーフレットの作成
 

全職員が共通理解のもと学級会を行えるよう作成してある。児童は学級会の進め方が学年が上がるにつれ身につけていく。
- 思考を整理するための操作化
 

短冊を使用し、意見分類、移動し児童の思考を整理する。
- 共通理解を図るための具体物や写真等の使用

#### (3) 一人一人のよさを認め合い、次の活動につなげる評価の工夫

- 学級会ノートの活用
- 活動の振り返りを確認する場面



<思考を整理するための操作化>

## 4 感想

今回の研修では、UD を視점에置き、児童の発達段階に応じて様々な手立てを講じ実践を積んできたことが授業公開や協議会からうかがえた。児童の手による掲示物、主体的に生き生きと授業に取り組む様はまさに、研究主題にある「楽しい学校生活」を送っている一端を参観したように感じた。学力が向上しているという結果からもこの実践が効果的だといえる。本校でも取り入れながら教育活動を展開していきたい。